2014年2月3日
株式会社リクルートマーケティングパートナーズ

一般社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会・株式会社リクルートマーケティングパートナーズ合同調査
第6回　高校生と保護者の進路に関する意識調査2013

保護者にとって最も重要な情報は「進学費用」

保護者の4割が「グローバル人材になってほしい」と期待するが、親子ともに「語学力」が不足と認識

一般社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会
会長　相川順子
進路対策委員長　鈴木敏彦
株式会社リクルートマーケティングパートナーズ　進学事業本部長　田中浩嗣

一般社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会（所在地：東京都千代田区　会長：相川順子）と株式会社リクルートマーケティングパートナーズ（本社：東京都千代田区　代表取締役社長：冨塚 優）は、高校２年生とその保護者に対し、進路に関する考え方やコミュニケーションの実態を探る調査を実施いたしました。ここに集計結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

【進路選択について】

●進学にあたり保護者が重要だと考える情報は、「進学費用」「入試制度」「学部・学科の内容」→ｐ3~4

・進路選択のアドバイスが「難しい」と感じる保護者は72%。
理由のトップは「社会がどのようになっていくか予測がつかない」。
・進学にあたり保護者が重要だと考える情報は「進学費用」「入試制度」「学部・学科の内容」。
トップの「進学費用」については前々回調査（2009年）より2回連続の増加。

●保護者と高校生の“将来社会の展望”が明るい兆しに変化　→p5

・これからの社会の見通しは、保護者の61%、高校生の55%が、「好ましくない」と回答するが、
前々回調査と比較すると保護者・高校生ともに「好ましい」と回答した割合が大幅に増加。

【グローバル化について】

●保護者の約半数が子どもの将来にグローバル化の影響を実感。「グローバル人材になってほしい」が４割　→p6

・保護者の48%、高校生の50%が、子ども（自分）の将来に社会や経済のグローバル化は影響があると回答。
・保護者の39%、高校生の54%が、グローバル社会で通用する人材になってほしい（なりたい）と考えており、
高校生の志向が保護者を上回る。

●グローバル人材になるために不足している力は、親子ともに「語学力」がトップ　→p7~9

・グローバル人材になるために不足している力は、保護者は「語学力」「宗教や文化、歴史に対する教養」「ディベート力」。高校生は「語学力」「プレゼンテーション力」「論理的思考力」。
・子どもを「留学させたい」保護者は22%、「させたいと思わない」の約半数。
させたい理由のトップは「視野や考え方が広がる」、させたくない理由のトップは「海外の治安に不安がある」。

参考：保護者・高校生の「就かせたい（就きたい）職業ランキング」→p10
・保護者、高校生ともに「就かせたい（就きたい）職業」の上位3位は、「公務員」「教師」「看護師」であり共通。

※出版・印刷物へデータを転載する際には、“「高校生と保護者の進路に関する意識調査2013」
一般社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会・株式会社リクルートマーケティングパートナーズ合同調査”と明記ください。
リクルートマーケティングパートナーズではこれからも、ひとりひとりにあった「まだ、ここにない、出会い。」を届けることを目指していきます。

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社リクルートマーケティングパートナーズ　広報担当
https://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/

【調査概要】

・調査目的：高校生を持つ保護者とその子どもにおけるコミュニケーションの実態と進路観の現状を把握する

・調査主管：一般社団法人全国高等学校PTA連合会、株式会社リクルートマーケティングパートナーズ

・調査対象：高校生（２年生）とその保護者
一般社団法人全国高等学校PTA連合会より依頼した９都道府県の公立高校27校
※各都道府県：3 校（普通科2 校・専門学科もしくは総合学科1 校）
※各校：2年生2クラスの生徒とその保護者

2013年	北海道　岩手　富山　東京　神奈川　静岡　滋賀　香川　佐賀
2011年	北海道　青森　茨城　東京　新潟　愛知　大阪　鳥取　佐賀
2009年	北海道　山形　埼玉　東京　石川　三重　京都　愛媛　鹿児島

※調査実施校所在地は毎年変わるため、時系列データは参考

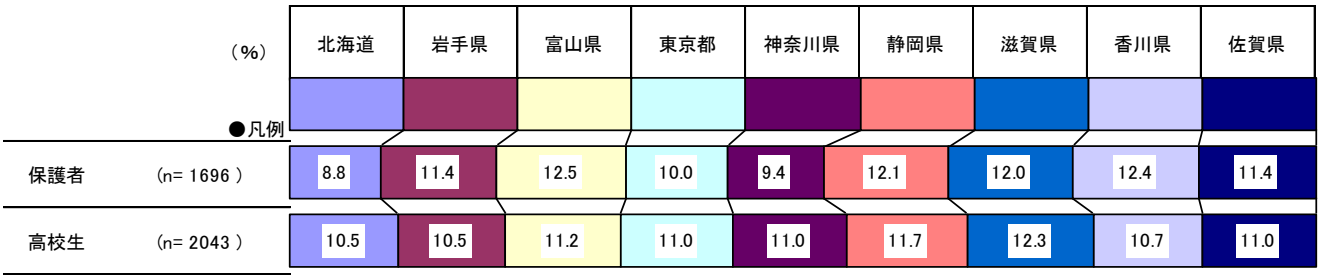
・調査期間：2013年9月24日（火）～2013年10月31日（木）回収終了

・調査方法：①高校生　ホームルーム時にアンケート実施
：②保護者　高校生から保護者へアンケートを手渡しで依頼、実施
クラスごと学級担任が高校生･保護者アンケートをまとめ、学校ごとに回収

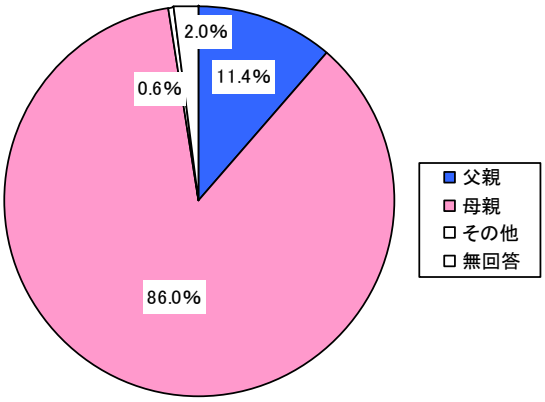
・有効回収数：①高校生　2,043名　※全問無回答1名を除く
②保護者　1,696名　※全問無回答8名を除く

【回答者プロフィール】

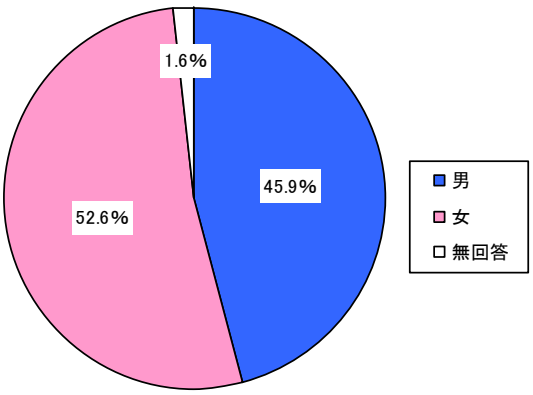
■調査実施校 （全体）



■続柄＜保護者＞（全体／単一回答）



■性別＜高校生＞（全体／単一回答）



【保護者：進路選択についてのコミュニケーション】

■保護者の89%が、子どもと進路について「話す」

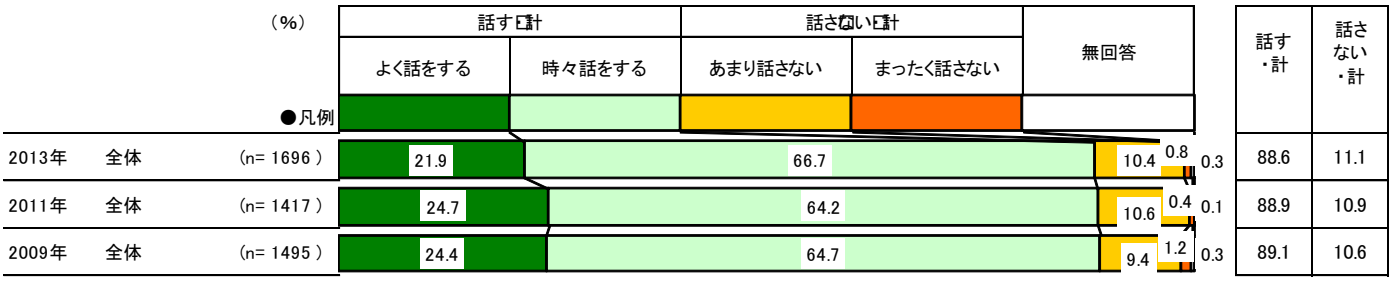
■進路選択のアドバイスが「難しい」と感じる保護者は72%

■アドバイスが難しい理由のトップは、前回調査（2011年）に引き続き、「社会がどのようになっていくか予測がつかない」

・1位「社会がどのようになっていくか予測がつかない」　（52.7%）
　2位「入試制度をはじめ最新の進路情報を知らない」　（46.4%）
　3位「経済的な理由で選択肢を狭めざるを得ない」（27.6%）

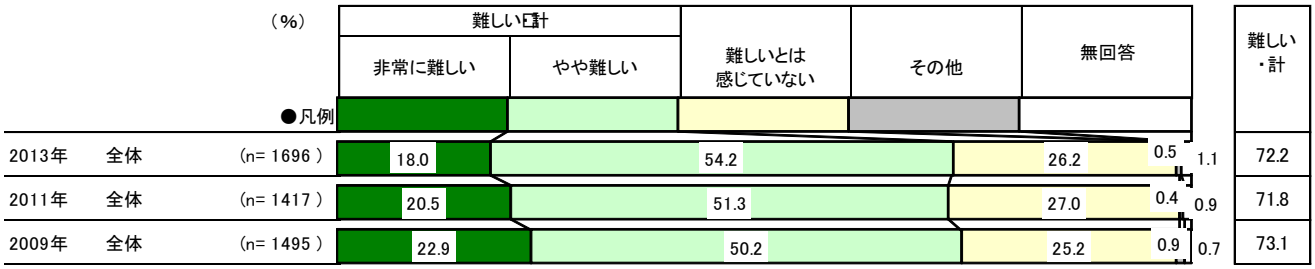
■トップの「社会がどのようになっていくか予測がつかない」は、前々回調査（2009年）より2回連続の減少

【保護者】進路についての話を子どもとしているか（全体／単一回答）

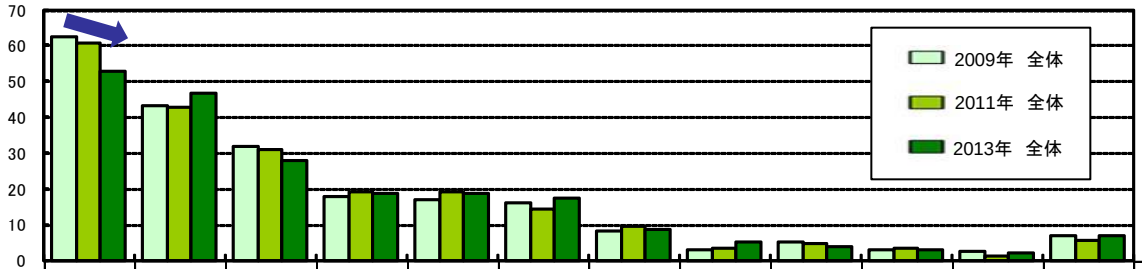


※「時々話をする」は2011年以前の調査では「たまに話をする」

【保護者】進路選択について子どもにアドバイスすることは難しいか（全体／単一回答）



【保護者】進路選択についてアドバイスを難しいと感じる要因（アドバイスが「難しい」回答者／複数回答）



		社会がどのようになっていくか予測がつかないから	入試制度をはじめ最新の進路情報を知らないから	家庭の経済的な理由で、子どもの進路の選択肢を狭めざるを得ないから	子どもがよくわからないから	子どもに何を考えているかわからない	子どもに自分の将来・進路の方向性を考えてもらいたいから	子どもが引きこもりになるのは気がかりだから	子どもの人生を決めてしまうようなアドバイスをすることは難しい	子どもがアドバイスを望んでいないから	子どもの相談にのったりアドバイスをする時間の余裕がないから	教師から情報提供が足りないなど、学校が頼りにならない高校だから	子どもと対立してしまいそうで怖いから	学校の進路指導の方針と考えが合わないことがあるから	その他	無回答
2013年　全体	1225	52.7	46.4	27.6	18.4	18.4	17.1	8.7	5.1	3.8	2.9	2.0	6.6	2.3
2011年　全体	1017	60.8	42.7	30.7	18.9	19.0	14.1	9.2	3.2	4.5	3.4	1.2	5.5	1.9
2009年　全体	1093	62.3	43.2	31.7	17.7	17.0	15.9	8.2	2.9	5.1	2.7	2.3	6.7	2.1

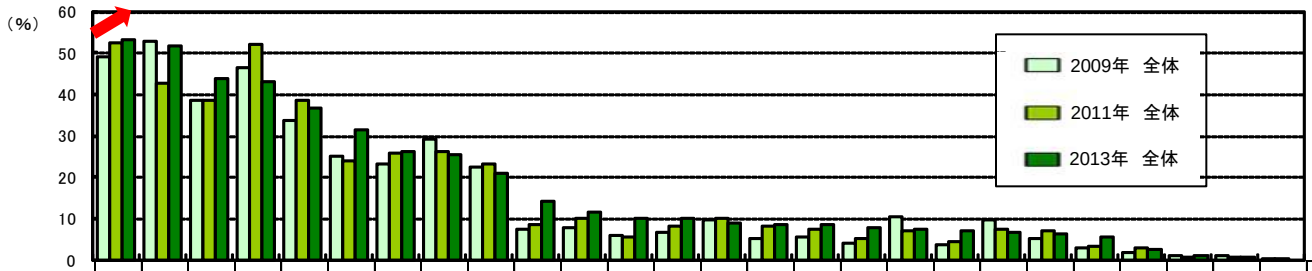
※「2013年 全体」の降順ソート　　100.0 各年・属性で最も高い　　100.0 各年・属性で2～5番目に高い

【保護者：進学にあたって重要だと思う情報】

■進学にあたって保護者が重要だと考える情報は
「進学費用」「入試制度」「学部・学科の内容」
トップの「進学費用」は前々回調査（2009年）より2回連続の増加

・1位「進学費用」（53.0%）
2位「現在の入試制度の仕組み」（51.7%）
3位「学部・学科の内容」（43.8%）

【保護者】特に重要な進学情報（進学希望者／5項目まで複数回答）



		進学費用（学費・生活費など）	現在の入試制度の仕組み	学部・学科の内容	将来の職業との関連	就職の状況（実績）	入試の内容	資格取得の状況（実績）	奨学金の種類と採用条件	難易度	校風・雰囲気	サポート体制	カリキュラムの特徴	通学の便	進学に利用できる教育ローン	周辺環境	施設・設備の充実	教授（講師）陣の充実	最近の高校生の卒業後の進路	授業の内容	大学・短大・専門学校など学校種の違い	子どもの高校の進学実績	教育方針	進学先の知名度	中退の状況	財務状況	その他	無回答
2013年　全体	996	53.0	51.7	43.8	43.1	36.5	31.4	26.2	25.2	21.0	13.9	11.5	9.9	9.9	9.0	8.4	8.3	7.6	7.4	7.0	6.6	6.1	5.5	2.6	0.8	0.6	—	15.6
2011年　全体	852	52.3	42.7	38.6	51.9	38.6	23.9	25.8	25.9	23.2	8.3	10.0	5.6	8.2	10.0	7.9	7.5	4.9	6.8	4.2	7.2	6.9	3.3	2.7	0.7	0.6	0.1	23.6
2009年　全体	924	49.1	52.7	38.6	46.5	33.7	25.1	22.9	29.0	22.4	7.4	7.8	5.8	6.4	9.6	4.9	5.4	4.1	10.2	3.7	9.4	5.1	2.8	1.7	1.0	0.8	0.2	4.8

※「2013年 全体」の降順ソート　100.0 各年・属性で最も高い　100.0 各年・属性で2～5番目に高い
※ 2011年、2013年は「特に重要な5項目」の前に個数制限なしの同設問あり。2009年はなし。

【保護者・高校生：これからの社会は好ましいか】

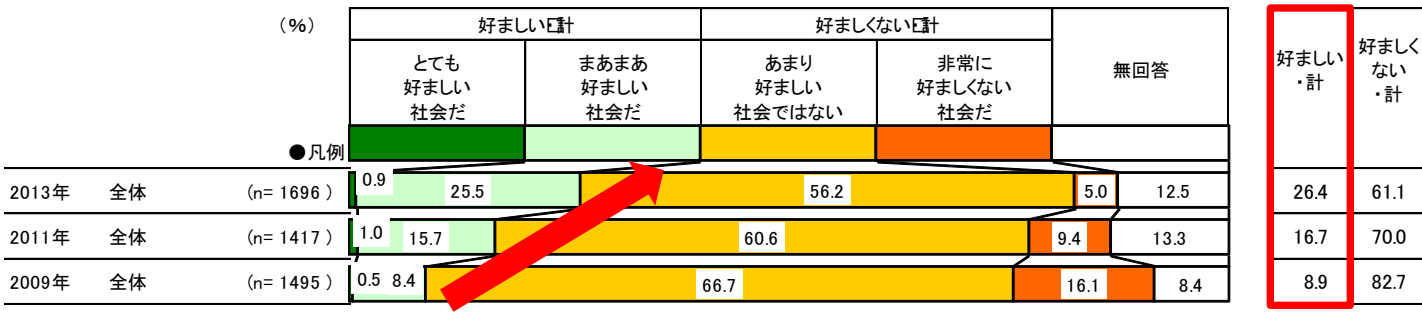
■保護者の61%、高校生の55%が、
これからの社会は「好ましくない」と回答。「好ましい」を上回る

・保護者　「好ましい」（26.4%）＜「好ましくない」（61.1%）
・高校生　「好ましい」（41.9%）＜「好ましくない」（54.8%）

■保護者・高校生ともに「好ましい」と回答している割合は、
前々回調査（2009年）より大幅に増加。

・保護者「好ましい」　2009年（8.9%）＜　2011年（16.7%）＜ 2013年（26.4%）
・高校生「好ましい」　2009年（20.2%）＜　2011年（26.5%）＜ 2013年（41.9%）

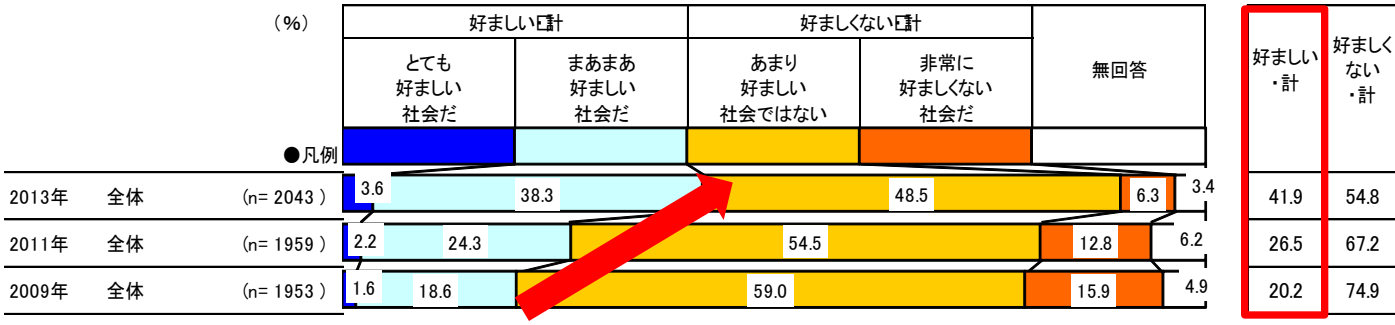
【保護者】これからの社会は子どもにとって好ましい社会か（全体／単一回答）



≪フリーコメント≫
好ましい：「今は不況であるが、オリンピックが決まり、徐々に景気回復の兆しが見えてきたので」
「子どもたちが就職する際には、景気が上向きになっていそうだから」
「女性でも勉強したければできるし、働きたければ働ける時代になりつつある。私たちより選択肢が多い社会である」

好ましくない：「先の見えない世の中だから」
「国の財政、少子化、年金問題、増税、原発やエネルギー問題等、問題が多すぎます」
「景気回復のニュースを見るが、一部のみであり、実感できない。就職先もいまだに狭き門であることを考えると、自分の働きたい職場でのびのび仕事ができるとは思えない」

【高校生】これからの社会はあなたにとって好ましい社会か（全体／単一回答）



≪フリーコメント≫
好ましい：「アベノミクスの影響があると思うから」
「オリンピックが決まったので、経済的にもよくなると思うから」
「これからグローバル社会になって、外国の人々とつながることができるので楽しいと思う」

好ましくない：「景気が上向きになってきたとは言え、まだまだ不況だと思うから」
「消費税が上がるし、この先、年金などももらえなくなってしまうかもしれない。若者の雇用も更に減りそう」
「私たちは最後のゆとり世代で、後から優秀なゆとりでない世代が入ってくるから」

【保護者・高校生】グローバル化の影響とグローバル人材への志向

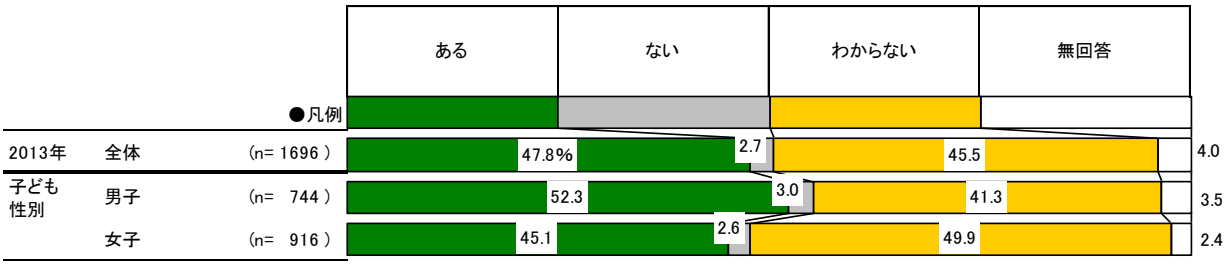
■保護者の48%、高校生の50%が、子ども（自分）の将来に社会や経済のグローバル化は影響があると考えている。

・保護者　「影響がある」（47.8%）　＞　「影響がない」（2.7%）
・高校生　「影響がある」（50.2%）　＞　「影響がない」（10.3%）

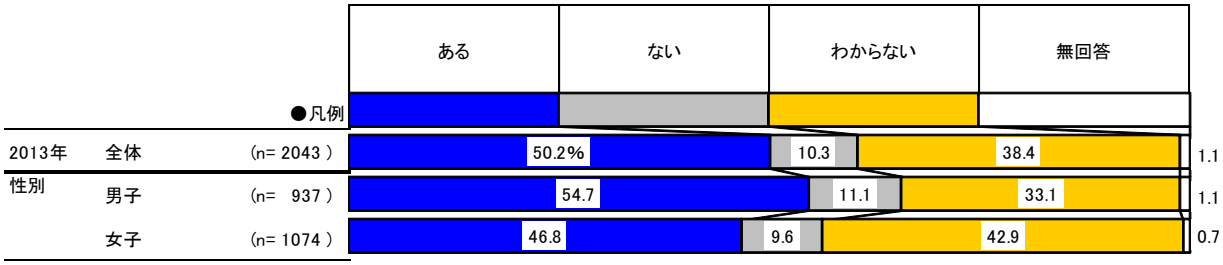
■保護者の39%、高校生の54%が、グローバル社会で通用する人材になってほしい（なりたい）と考えており、高校生の志向が保護者を上回る。

・保護者　「なってほしい」（38.6%）　＞　「なってほしいと思わない」（5.2%）
・高校生　「なりたい」（54.3%）　＞　「なりたいと思わない」（11.3%）

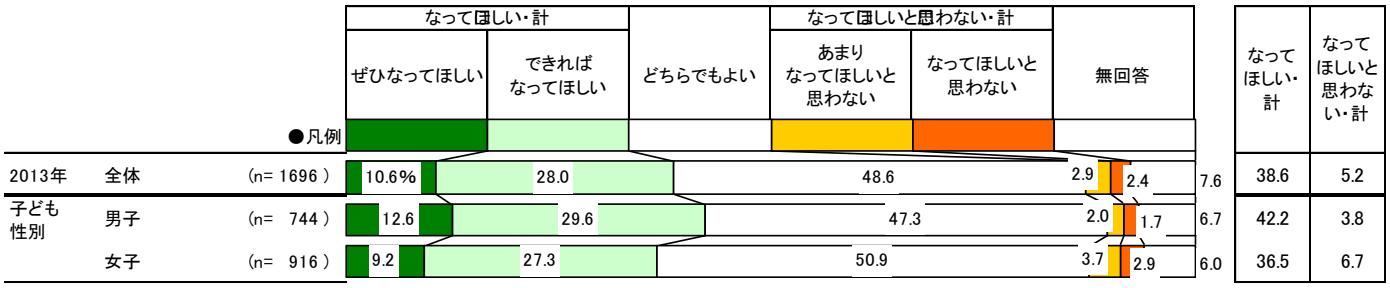
【保護者】 子どもの将来に社会・経済のグローバル化は影響があると思うか（全体／単一回答）



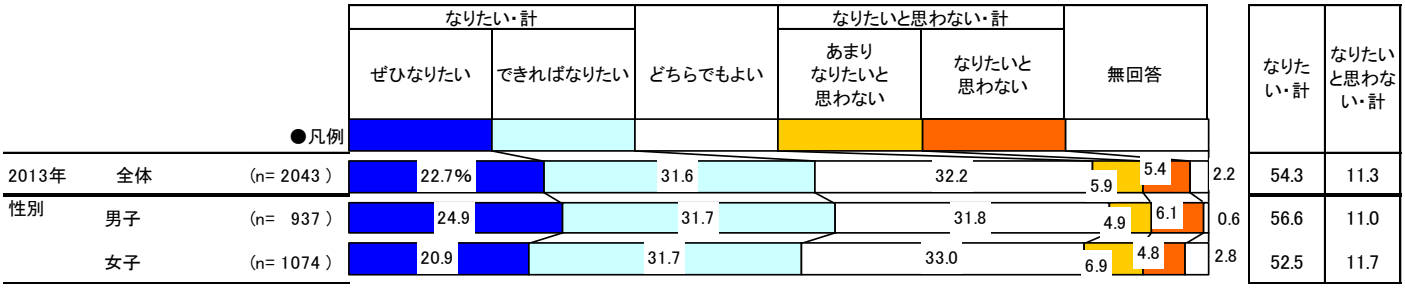
【高校生】 自分の将来に社会・経済のグローバル化は影響があると思うか（全体／単一回答）



【保護者】 子どもにグローバル社会で通用する人材になってほしいか（全体／単一回答）



【高校生】 グローバル社会で通用する人材になりたいと思うか（全体／単一回答）



【保護者】グローバル社会で通用する人材になるために必要な力

■保護者が考える、グローバル社会で通用する人材になるために必要な力のトップは「コミュニケーション力」次いで「語学力」

・グローバル社会で通用する人材になるために必要と思われる能力

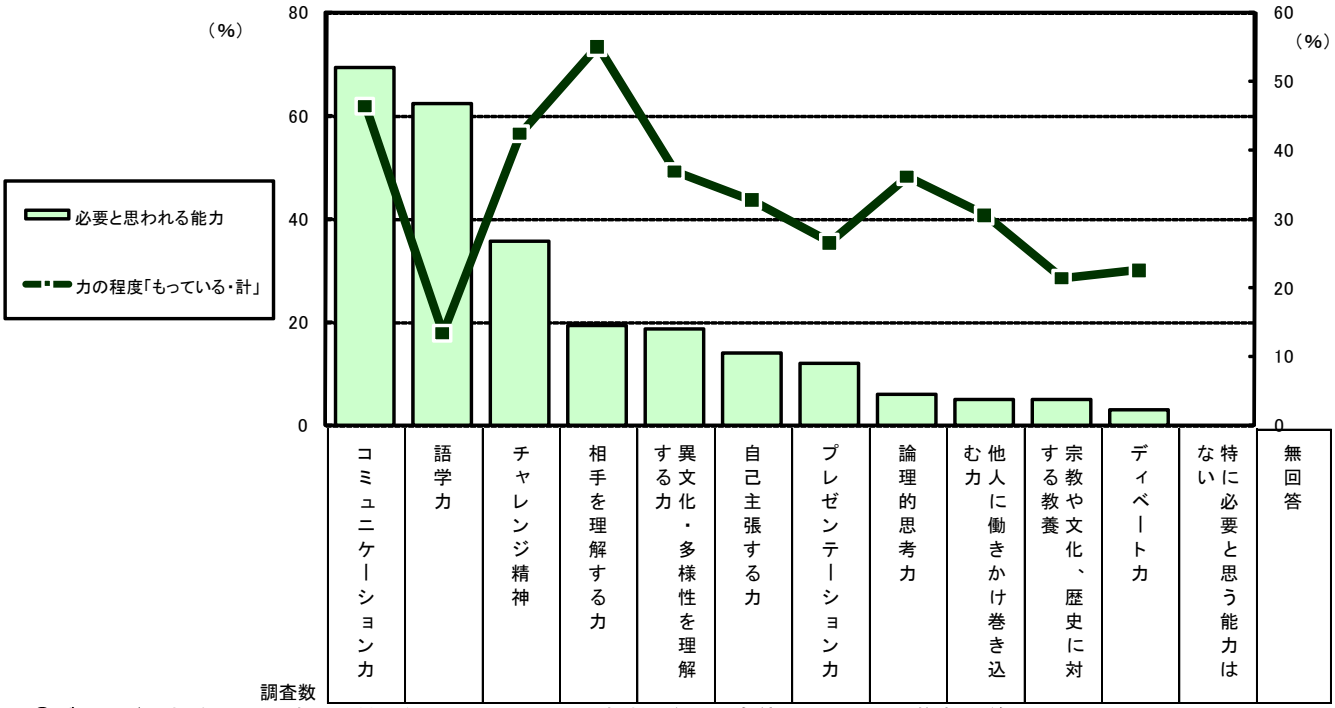
1位　「コミュニケーション力」（69.1%）
2位　「語学力」（62.1%）
3位　「チャレンジ精神」（35.6%）

■グローバル人材になるために不足しているのは「語学力」「宗教や文化、歴史に対する教養」「ディベート力」

・それぞれの能力について、必要であると答えたもののうち、自分の子どもがもっていると答えた割合が低いもの

1位　「語学力」（もっている：13.3%）
2位　「宗教や文化、歴史に対する教養」（もっている：21.3%）
3位　「ディベート力」（もっている：22.4%）

【保護者】 グローバル社会で通用する人材のための能力と、子どもがもっている力の程度（複数回答・各単一回答）
※「力の程度」は「必要と思われる能力」で選択した各能力について、「もっている」と回答した割合



■①グローバル社会で通用する人材になるために必要と思われる能力（全体／3項目まで複数回答）

		調査数	コミュニケーション力	語学力	チャレンジ精神	相手を理解する力	異文化・多様性を理解する力	自己主張する力	プレゼンテーション力	論理的思考力	他人に働きかけ巻き込む力	宗教や文化、歴史に対する教養	ディベート力	特に必要と思う能力はない	無回答
2013年	全体	1696	69.1	62.1	35.6	19.1	18.6	13.7	11.9	5.9	4.7	4.7	2.9	—	13.5
子ども性別	男子	744	71.0	61.3	36.8	19.8	19.4	12.6	12.5	7.0	6.0	5.4	3.2	—	11.4
	女子	916	69.8	64.5	35.5	19.0	18.3	15.0	11.8	5.2	3.7	4.4	2.7	—	12.8

■②子どもがもっている力の程度：「もっている・計」一覧（各能力「必要」回答者／各単一回答）

		コミュニケーション力	語学力	チャレンジ精神	相手を理解する力	異文化・多様性を理解する力	自己主張する力	プレゼンテーション力	論理的思考力	他人に働きかけ巻き込む力	宗教や文化、歴史に対する教養	ディベート力
2013年	全体	46.3 (n= 1172)	13.3 (n= 1053)	42.2 (n= 604)	54.9 (n= 324)	36.7 (n= 316)	32.6 (n= 233)	26.4 (n= 201)	36.0 (n= 100)	30.4 (n= 79)	21.3 (n= 80)	22.4 (n= 49)
子ども性別	男子	47.7 (n= 528)	10.3 (n= 456)	39.8 (n= 274)	55.1 (n= 147)	34.7 (n= 144)	29.8 (n= 94)	31.2 (n= 93)	40.4 (n= 52)	28.9 (n= 45)	15.0 (n= 40)	20.8 (n= 24)
	女子	45.4 (n= 639)	15.6 (n= 591)	44.0 (n= 325)	55.2 (n= 174)	38.7 (n= 168)	34.3 (n= 137)	22.2 (n= 108)	31.3 (n= 48)	32.4 (n= 34)	27.5 (n= 40)	24.0 (n= 25)

※ ②「もっている・計」＝「十分もっている」・「まあまあもっている」の合算値　　※ ①「2013年 全体」降順ソート

100.0 「2013年 全体」より5ポイント以上高い

【高校生】グローバル社会で通用する人材になるために必要な力

■高校生が考える、グローバル社会で通用する人材になるために必要な力のトップは「コミュニケーション力」次いで「語学力」

・グローバル社会で通用する人材になるために必要と思われる能力

1位　「コミュニケーション力」（76.3%）
2位　「語学力」（63.1%）
3位　「自己主張する力」（29.3%）

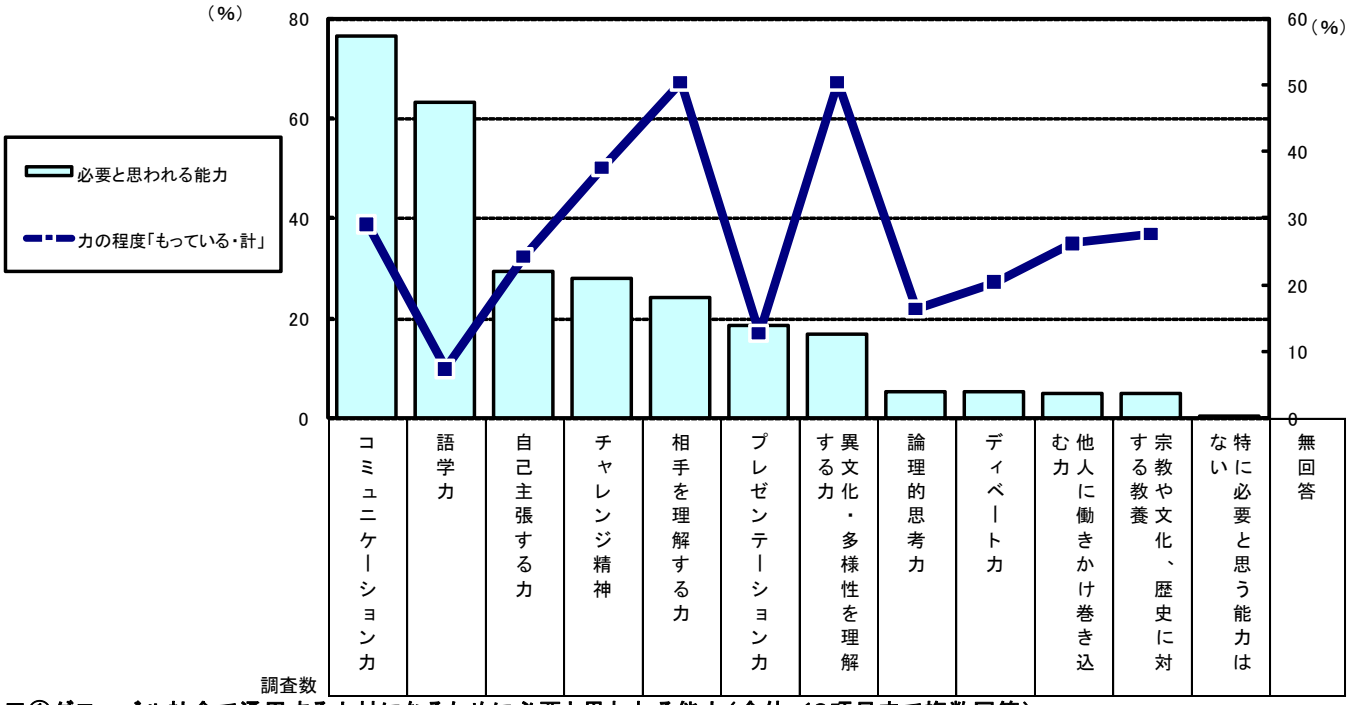
■グローバル人材になるために不足しているのは「語学力」「プレゼンテーション力」「論理的思考力」

・それぞれの能力について、必要であると答えたもののうち、自分がもっていると答えた割合が低いもの

1位　「語学力」（もっている：7.4%）
2位　「プレゼンテーション力」（もっている：12.7%）
3位　「論理的思考力」（もっている：16.4%）

【高校生】 グローバル社会で通用する人材のための能力と、自分がもっている力の程度（複数回答・各単一回答）

※「力の程度」は「必要と思われる能力」で選択した各能力について、「もっている」と回答した割合



■①グローバル社会で通用する人材になるために必要と思われる能力（全体／3項目まで複数回答）

		調査数	コミュニケーション力	語学力	自己主張する力	チャレンジ精神	相手を理解する力	プレゼンテーション力	異文化・多様性を理解する力	論理的思考力	ディベート力	他人に働きかけ巻き込む力	宗教や文化、歴史に対する教養	特に必要と思う能力はない	無回答
2013年	全体	2043	76.3	63.1	29.3	28.1	24.1	18.5	16.8	5.4	5.3	5.0	4.8	0.1	4.0
性別	男子	937	74.8	63.1	30.2	26.9	24.9	20.6	14.9	6.7	5.1	6.2	5.3	0.2	3.5
	女子	1074	78.1	63.8	29.0	29.5	23.2	16.9	18.6	4.4	5.5	4.2	4.5	—	3.4

■②子どもがもっている力の程度：「もっている・計」一覧（各能力「必要」回答者／各単一回答）

		コミュニケーション力	語学力	自己主張する力	チャレンジ精神	相手を理解する力	プレゼンテーション力	異文化・多様性を理解する力	論理的思考力	ディベート力	他人に働きかけ巻き込む力	宗教や文化、歴史に対する教養
2013年	全体	29.1 (n= 1559)	7.4 (n= 1289)	24.2 (n= 599)	37.6 (n= 575)	50.3 (n= 493)	12.7 (n= 377)	50.4 (n= 343)	16.4 (n= 110)	20.4 (n= 108)	26.2 (n= 103)	27.6 (n= 98)
性別	男子	30.1 (n= 701)	9.1 (n= 591)	25.4 (n= 283)	42.1 (n= 252)	52.4 (n= 233)	15.5 (n= 193)	47.9 (n= 140)	22.2 (n= 63)	27.1 (n= 48)	17.2 (n= 58)	40.0 (n= 50)
	女子	28.5 (n= 839)	5.7 (n= 685)	23.2 (n= 311)	34.7 (n= 317)	49.4 (n= 249)	9.9 (n= 182)	53.0 (n= 200)	8.5 (n= 47)	13.6 (n= 59)	37.8 (n= 45)	*14.6* (n= 48)

※ ②「もっている・計」＝「十分もっている」・「まあまあもっている」の合算値　　※ ①「2013年 全体」降順ソート

100.0 「2013年 全体」より10ポイント以上高い　　100.0 「2013年 全体」より5ポイント以上高い

100.0 「2013年 全体」より10ポイント以上低い

【保護者】子どもを留学させたいか

■子どもを「留学させたい」のは22%、「させたいと思わない」の約半数

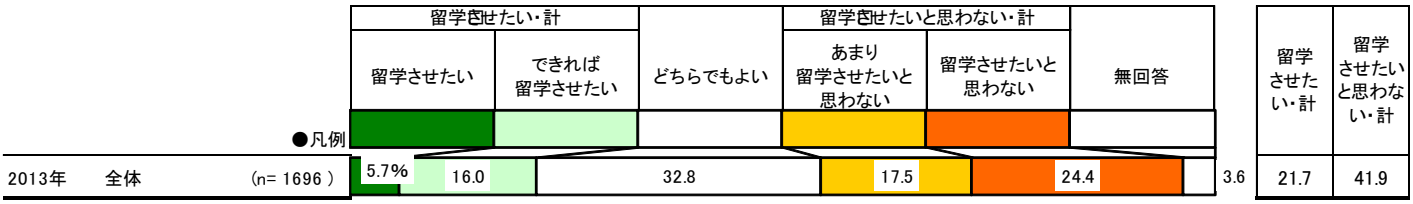
・「留学させたい」（21.7%）　＜　「留学させたいと思わない」（41.9%）

■留学させたい理由のトップは「視野や考え方が広がる」、させたいと思わない理由のトップは「海外の治安に不安がある」

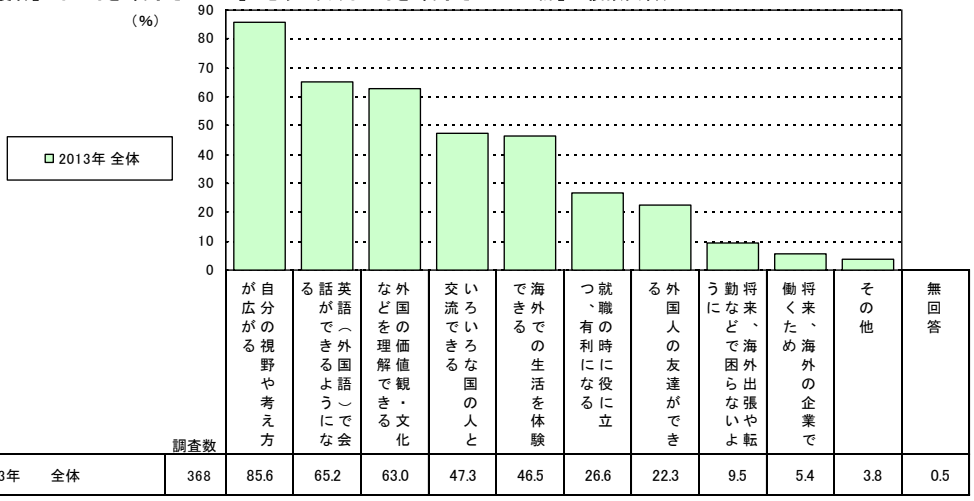
・留学させたい理由
　1位　「自分の視野や考え方が広がる」（85.6%）
　2位　「英語（外国語）で会話ができるようになる」（65.2%）
　3位　「外国の価値観・文化などを理解できる」（63.0%）

・留学させたいと思わない理由
　1位　「海外の治安に不安がある」（48.5%）
　2位　「そもそも留学ということを考えたことがない」（38.4%）
　3位　「費用が高いから」（26.5%）

【保護者】 子どもを留学させたいと思うか（全体／単一回答）

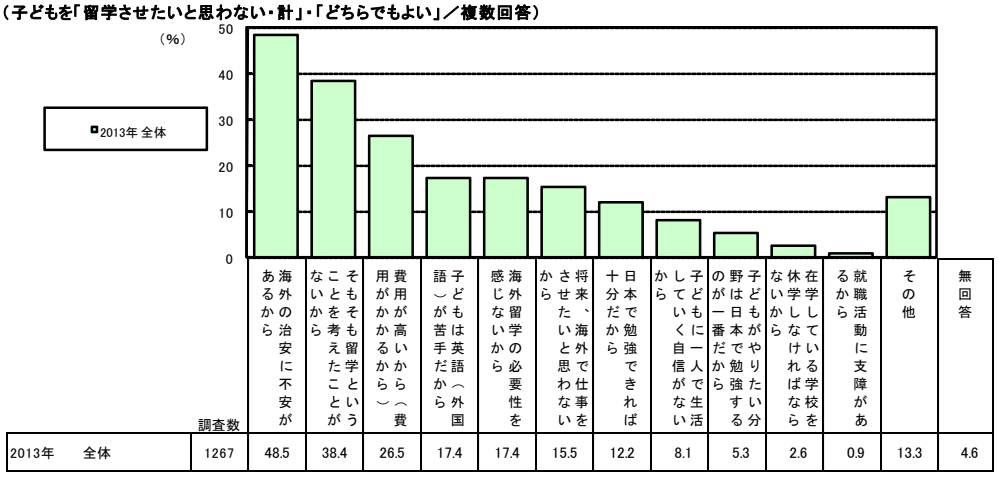


【保護者】 子どもを「留学させたい」と思う理由（子どもを「留学させたい・計」／複数回答）



※「2013年 全体」降順ソート

【保護者】 子どもを「留学させたいと思わない」「どちらでもよい」と思う理由
（子どもを「留学させたいと思わない・計」・「どちらでもよい」／複数回答）



※「2013年 全体」降順ソート

参考：【保護者・高校生：就かせたい（就きたい）職業】

■保護者、高校生ともに「就かせたい（就きたい）職業」の上位3位は、「公務員」「教師」「看護師」であり共通。

【保護者】　就かせたい職業(就かせたい職業がある/単一回答)

全体　（n＝396）

順位	職業	%
1	公務員	27.5
2	看護師	14.9
3	教師	5.3
4	理学療法士・作業療法士	5.1
5	医師・歯科医師・獣医	4.3
6	建築設計士	4.0
7	技術者・研究者	3.3
8	管理栄養士・栄養士	2.8
9	保育士・幼稚園教諭	2.5
	薬剤師	2.5

子ども性別 ： 男子　（n＝177）

順位	職業	%
1	公務員	35.0
2	理学療法士・作業療法士	7.9
3	教師	7.3
4	建築設計士	6.2
5	技術者・研究者	5.1
	医師・歯科医師・獣医	5.1
7	会社員	3.4
8	薬剤師	2.8
	農業	2.8
10	製造・加工・組立	2.3
	看護師	2.3
	会計士・税理士	2.3

子ども性別 ： 女子　（n＝212）

順位	職業	%
1	看護師	25.5
2	公務員	20.8
3	管理栄養士・栄養士	5.2
4	保育士・幼稚園教諭	4.2
5	医師・歯科医師・獣医	3.8
	事務	3.8
	教師	3.8
8	理学療法士・作業療法士	2.8
9	薬剤師	2.4
	建築設計士	2.4

【高校生】　就きたい職業(就きたい職業がある/単一回答)

全体　（n＝1425）

順位	職業	%
1	公務員	8.6
2	教師	7.6
3	看護師	7.2
4	保育士・幼稚園教諭	5.0
5	技術者・研究者	4.7
6	建築設計士	3.9
7	医師・歯科医師・獣医	3.8
8	薬剤師	2.7
9	事務	2.6
10	俳優・タレント・ミュージシャン・声優	2.5

男子　（n＝605）

順位	職業	%
1	公務員	12.4
2	教師	9.4
3	技術者・研究者	7.9
4	建築設計士	6.1
5	製造・加工・組立	4.3
6	ゲーム関係	3.8
	医師・歯科医師・獣医	3.8
8	薬剤師	3.3
9	俳優・タレント・ミュージシャン・声優	3.0
10	理学療法士・作業療法士	2.6
	スポーツトレーナー・インストラクター	2.6

女子　（n＝802）

順位	職業	%
1	看護師	11.6
2	保育士・幼稚園教諭	7.9
3	教師	6.4
4	公務員	5.6
5	事務	3.9
6	医師・歯科医師・獣医	3.6
7	トリマー・動物関連	3.1
8	音楽家・画家・芸術関連	3.0
9	客室乗務員・空港職員	2.6
10	薬剤師	2.2
	俳優・タレント・ミュージシャン・声優	2.2
	管理栄養士・栄養士	2.2
	ファッションデザイナー・スタイリスト・アパレル関連	2.2
	技術者・研究者	2.2
	建築設計士	2.2
	ホテル・旅館の接客	2.2

【高校生】　就きたくない職業(全体/単一回答)

全体　（n＝2043）

順位	職業	%
1	パート・アルバイト	9.9
2	政治家	5.4
3	教師	3.9
4	医師・歯科医師・獣医	2.7
5	その他（主婦・主夫）	2.5
6	公務員	2.3
	弁護士・法律関連	2.3
8	俳優・タレント・ミュージシャン・声優	2.0
9	農業	1.9
10	プロスポーツ選手	1.7

男子　（n＝937）

順位	職業	%
1	パート・アルバイト	10.9
2	政治家	4.5
3	教師	3.9
4	公務員	2.6
	医師・歯科医師・獣医	2.6
6	その他（主婦・主夫）	2.1
7	俳優・タレント・ミュージシャン・声優	1.9
8	自営業	1.7
9	通訳・翻訳	1.5
	農業	1.5

女子　（n＝1074）

順位	職業	%
1	パート・アルバイト	9.0
2	政治家	6.1
3	教師	3.9
4	弁護士・法律関連	3.4
5	医師・歯科医師・獣医	2.9
	その他（主婦・主夫）	2.9
7	プロスポーツ選手	2.4
8	農業	2.2
9	公務員	2.1
10	俳優・タレント・ミュージシャン・声優	2.0

※「公務員」は「公務員（国家・地方）」「公務員（警察・消防・自衛官）の合算値